

日鉄住金建材の防災商品“ノンフレーム工法”が
「2011年度グッドデザイン賞」を受賞
「斜面防災と環境保全を両立する技術」が高い評価を獲得

新日鉄グループの日鉄住金建材株式会社（社長 増田規一郎）では、このたび財団法人日本産業デザイン振興会が主催する「2011年度グッドデザイン賞」（Gマーク）を防災商品“ノンフレーム工法”で受賞致しました。当社商品の受賞は2010年度のガードパイプ“GP-N”に続き、2年連続となりました。

ノンフレーム工法は、自然環境や景観を保ちながらがけ崩れ対策が図れるという、これまでにない画期的な斜面防災工法です。

従来、がけ崩れ対策では、斜面全体をコンクリート構造物で覆い固めてしまう方法が一般的に行われてきました。しかしこの方法は、斜面の樹木を伐採しなければならぬというのに、人工的なコンクリート構造物が長年に渡って目立ち、環境や景観が損なわれてしまうという問題がありました。

この問題を解決するために、“樹木を保全しながらがけ崩れ対策”をコンセプトに開発されたのが、ノンフレーム工法です。

本工法の開発に当たっては、重厚な構造物で斜面を抑え込むという従来の考え方とは一線を画し、樹木の「根っこ」が持つがけ崩れ防止効果に着目。その効果を“人工根”として具現化することによって、樹木を伐採せずにながけ崩れ対策を図ることを可能にしました。

今回のグッドデザイン賞では、ノンフレーム工法が有する「人と自然が共生し、森林保全と斜面防災を両立させる」という効果が高く評価されました。

ノンフレーム工法には、従来技術と比べて以下の特長があります。

○環境・景観保全

施工に当たって斜面の樹木をほとんど伐採しないため、施工後も元々の環境・景観が保全できます。また、伐採木や残土等の産業廃棄物・建設副産物の発生も大幅に抑制できます。

○工期短縮

コンクリート打設を必要とする従来技術に対して、二次製品を用いることによって大幅な工期短縮が図れます。

○高い適用性

樹木伐採・搬出作業が省力化できるうえに、コンクリートを用いないため、家屋密集地や高所での施工性に優れています。

○経済性

従来技術と比べて5～10%のコスト削減を実現しています。

ノンフレーム工法は1996年に販売を開始。その後、国土交通省の新技术情報システム「NETIS（ネットィス）」への登録（登録番号：CB-020050-A）を始め、全国各地での講習会開催等、積極的な提案活動を展開。これらの活動が実を結び、2006年度には年間施工面積が10万㎡を突破。その後も実績を伸ばし続け、2010年度には累計施工実績100万㎡を達成、環境を保全できるがけ崩れ対策工法として、広く認知されるようになりました。

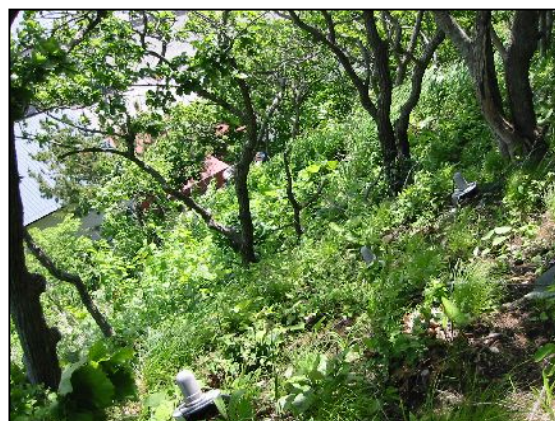
今後、斜面防災工事においても、環境・景観保全に対する要求がますます高まっていくものと考えられます。当社ではノンフレーム工法が有する優れた環境保全性能を活かして、「斜面防災と環境保全の両立」に貢献して参ります。

なお、現在東京ミッドタウン・デザインハブで開催中の第30回企画展「GOOD DESIGN EXHIBITION 2011」（10月3日（月）～11月13日（日）、11:00～19:00、入場無料）にも、ノンフレームが展示されておりますので、ぜひご覧下さい。

お問い合わせ先；日鉄住金建材株式会社 土木鉄構商品部
TEL：03-3630-2492



ノンフレーム工法施工事例1



ノンフレーム工法施工事例2



ノンフレーム工法と従来技術の比較